

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

半田病院事務局管理課

半田病院事務局長 竹内 甲司

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
34-001	病院経営事業	なし	A	地域の医療機関等との連携及び機能分化を推進し、急性期に特化した患者を受け入れることで、入院患者数や手術件数の増加に繋げてさらに収益を改善するとともに、30年度で退職給付引当金の計上が終了したこともあり、累積欠損金を解消することができた。また、薬品や診療材料、医療機器等の購入においては、継続した価格交渉や材料の見直しなどに加えて、消費税率引上げへの対応として前倒して購入するなど経費の節減に努め成果に繋げることができた。 今後急性期を中心とした患者の確保と、安定した収益を継続して確保していく必要がある。	改善 推進	地域の医療機関等との連携及び機能分化を一層進めるとともに、手術支援ロボットなどの高度医療機器の導入にとまない、より高度かつ安全な医療を提供する。また魅力ある病院として安定した医師の確保に努める。 感染症拡大による減収や消費税増税の影響は大きいですが、これまで以上に経営感覚やコスト意識を身につけ、新病院建設に向けて職員が一丸となり安定した経営を維持していく。
34-002	看護職員確保対策事業	なし	D	インターンシップや病院見学、学生実習などを最大限受け入れるとともに、就職説明会への参加や広告掲載などによる効果的なPRを行うことで、新規採用者数については予定通り確保できた。常勤看護師の離職率については、定年退職者(3名→11名)や新規採用退職者の増加にとまない目標を下回る結果となった。 入院患者数の増加にとまない急性期一般入院料(旧7対1)の看護配置基準を満たせなくなっており、安定した新規採用者の確保と離職防止を不断に行うことで、看護職全体の負担軽減を図るとともに質の高い看護を維持していく必要がある。	改善 推進	「医療従事者の負担軽減及び処遇の改善に資する計画」や働き方改革の実践にとまない休暇取得などの面では職員満足度も向上しており、さらなるワークライフバランスの推進に努め、心身両面の負担軽減を図ることで、働き続けられる職場環境を整える。 新人看護師の育成については、現状のマンツーマンによる手厚い研修教育体制に加えて、当院でのやりがいと自身の成長を感じ取れるコミュニケーションを心がけ、相互の信頼関係を形成することで離職率の低下を図る。
34-003	新病院建設事業	あり	B	常滑市民病院との診療統合及び経営統合を実現するために、「半田市立半田病院・常滑市民病院統合会議」を2度開催し、協議した。経営統合が可能か検証するとともに、経営統合する場合の条件や時期について、引き続き協議していくこととなった。 建設関連事業に関しては、いずれの業務も計画通り実施することができた。	現状 維持	常滑市民病院との診療統合及び経営統合を実現するために、「半田市立半田病院・常滑市民病院統合会議」を引き続き開催し、協議する。 一方、建設工事関連においては、現病院が抱える老朽化、耐震性、狭隘化等の課題を解決するために、知多半島中南部全域における中核病院として、救急医療を中心とした政策的医療を継続的に担う新病院を、安全にかつ遅滞なく建設する。
課等長	1次評価(元年度の総括評価)					
B	令和元年度は過去にない黒字決算とすることができたが、近隣医療機関の医師不足で、一時的に当院へ患者が増えたことも一つの要因である。将来にわたって黒字経営を続けていくためには患者に選ばれる病院となることが大切であり、そのためには医師や看護師などの人材が必要となる。元年度の医師マッチング結果(8人中5人)、看護師の離職者の増は、働き方改革により時間的な制約を受ける中、不安要素となっている。魅力ある病院となるためには、接遇などの職員教育や研修に力を入れるとともに、職場環境の改善が必要であり、新病院開院を待つことなく、統合が見込まれる常滑市民病院とは更なる機能分化、人事交流を進めて、両病院で満足度の高い医療を行う体制を構築したい。					
部等長	2次評価(元年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
B	入院患者の増加などにより収益を確保し、大幅な黒字決算とし、累積赤字を解消することができた。ただし新型コロナウイルス感染症の拡大による先行き不透明感は増しており、収益の確保とともに、診療材料などの価格交渉などにより、これまで以上の経費の削減努力をしていく必要がある。また、働き方改革の推進により看護師を始めとする離職対策、職員の満足度向上を図っていくとともに、常滑市民病院との連携により不足する職員の派遣による確保も図っていく。新病院建設については、建設事業は着実に進めることができたが、常滑市民病院との経営統合については解決すべき課題もあり、粘り強く協議をし、より良い病院となるよう事業を進めていく。					